

要旨

本研究は、東海・北陸9県の有床病院を有する医療法人100法人の『事業報告書等』を用い、債務超過リスクを規定する要因を財務・非財務両面から実証的に分析したものである。主成分分析およびロジスティック回帰分析の結果、病床規模の拡大、とりわけ一般療養病床比率の高さが債務超過リスクを有意に高める一方、精神病床の保有はリスク低減に寄与することが示された。また、事業利益率および流動比率の高さは強いリスク抑制要因として機能し、収益性と資金流動性の重要性が確認された。さらに、2020年度以降の年度要因がリスク上昇に作用し、特に2023年度は2012年度比で顕著なリスク増加が認められ、COVID-19後の外部環境変化が財務悪化を加速させた可能性が示唆された。以上より、医療法人の債務超過は財務要因と病床構成・外部環境が相互に影響する複合的現象であり、持続的経営には病床戦略と財務基盤強化の両立が不可欠である。